

「海愛」にあふれる栲さんが、より深い海の世界へ皆さんをご案内します。
栲さんご出演の音声ガイドもお聴きのがしなく！



特別展「海」公式ナビゲーター
海 栲 太一 (同志社大学助教)

<メッセージ>

唐突ですが、今あなたの目の前に、10個の宝箱があると想像してみてください。そのうち3個はもう開いていて、とても素敵な宝物が入っていました。でも残り7個の宝箱は、びったりと閉じたまま…。こうなると、残り7個の中身が気になってきませんか？ 開けてみたくなりませんか？

地球の面積の7割は、「海」です。しかし閉じた宝箱と同じくらい、いまだ「海」は分かっていないことだらけの世界。そこに何があるのか、どんな可能性が眠っているのか、実は私たちはまだまだ知らないのです。本展を通して皆さんは、宝箱を開けようとしてきた歴史とともに、もしかすると1、2個分くらいの中身にふれることができるかも知れません。ぜひ、目の前に広がる未知の世界にご期待下さい。そして願わくは、本展を見た子どもたちの中から、いつの日か残りの宝箱を開ける人が育っていくことを信じています。



音声
ガイド

貸出料金(税込) ※お一人様一台
600円

展示会場入口にて、専用ガイド機をレンタルできます。

アプリ配信版「聴く美術」(iOS/Android)

販売価格(税込) **650円**

※配信期間中は、いつでもどこでもなんでも視聴可能
※配信期間：展覧会開催期間中を予定

アプリ「聴く美術」
ダウンロードはこちら



オリジナルグッズ
＜各種コラボグッズやオリジナルぬいぐるみを展開！＞



ハンギョドンコラボグッズ

株式会社サンリオの大人気キャラクター「ハンギョドン」とのコラボを実施！文房具やTシャツなど各種グッズを販売します。

特大スネイルフィッシュ
ぬいぐるみ
(サイズ：約1m)
7,480円



センジュナマコ
ぬいぐるみ
(サイズ：約30cm)
1,980円

その他、海展でしか購入できないグッズの数々を、ぜひお楽しみください！
※画像はイメージです ※価格はいずれも税込 ※各商品の在庫には限りがあります
※詳細や販売に関する諸注意は公式サイトをご確認ください

関連企画
北極域研究船の船名募集

海洋研究開発機構は、本展の会期中に、2026年度の就航に向け現在新たに建造を進めている「北極域研究船」の船名を募集します。北極域は、地球温暖化による海水減少、気温上昇など急激な環境変化が進んでいる場所です。北極域研究船は、砕氷機能と世界レベルの観測機能を備えており、これまで観測が難しかった海水域でも観測データが取得できます。船名募集の詳細は後日、北極域研究船プロジェクトウェブサイトや本展公式サイト等を通じてお知らせします。



北極域研究船
プロジェクト
ウェブサイト



入場料(税込)

日時指定予約推奨

<基本料金> 一般・大学生：2,000円 小・中・高校生：600円

<スペシャルチケット>

オータム平日ペアチケット：3,000円(税込)
8/14～31の期間限定販売

9/1以降の平日のみ利用できるお得なペアチケットです。2名が別々にご覧いただくことも、1名で2回ご覧いただくこともできます。詳細や諸注意は公式サイトをご確認ください。

※本展は時間ごとに定員を設けており、公式サイトより日時指定予約を推奨しております。当日券での入場枠も設けておりますが、ご来場時にお待ちいただく場合がございます。入場枠が完了した際はご入場いただけません。※未就学児は無料。※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。※学生証、各種証明書をお持ちの方は、入場の際にご提示ください。※本展を閲覧された方は、同日に限り常設展(地球館・日本館)もご覧いただけますが、常設展示の開催時間内に限ります。※チケットのキャンセル・券種変更・払い戻し・再発行はいたしません(ただし、「アソビュー！」のみキャンセル可能)。※再入場はできません。※会場内の混雑等により、ご入場をお待ちいただく場合がございます。※土、日曜日、祝日、および会期末はご予約いただけない可能性が高くなりますので、早めのご予約・ご購入をお勧めいたします。

展覧会公式サイト <https://umiten2023.jp>

公式Twitter: @umiten2023

問い合わせ: 050-5541-8600(ハローダイヤル) 03-5814-9898(FAX)



公式サイト

国立科学博物館 JAMSTEC NHK NHKプロモーション 読売新聞

アクセス

国立科学博物館(東京・上野公園)
National Museum of Nature and Science (Ueno Park, Tokyo)

- 〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20
- JR「上野」駅(公園口)から徒歩5分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線「上野」駅(7番出口)から徒歩10分
- 京成線「京成上野」駅(正面口)から徒歩10分
- ※敷地内に駐車場および駐輪場はありません



巡回情報

名古屋市科学館(愛知・名古屋市) 2024年3月16日(土)～6月9日(日)

※展示物は東京会場と一部異なります。予めご了承ください。

特別展

海母

— 生命のみなもと —

Special Exhibition The OCEAN - The Origin of Life

海を知り、
未来を考える。

2023.7.15(土)-10.9(月・祝) 国立科学博物館(東京・上野公園)

National Museum of Nature and Science (Ueno Park, Tokyo)

開館時間：9時～17時(入場は16時30分まで) 休館日：9月4日(月)・11日(月)・19日(火)・25日(月)

夜間開館：8月11日(金・祝)～8月20日(日)は19時閉館(入場は18時30分まで)

※常設展示は8月11日(金・祝)～8月15日(火)は18時まで。それ以外の期間、常設展示は17時まで(入場は各閉館時間の30分前まで)

主催：国立科学博物館、海洋研究開発機構、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社 協賛：商船三井、光村印刷

協力：アクアマリンふくしま、インドネシア共和国海洋水産省、インドネシア共和国国立研究革新庁、市原市遺産文化財調査センター、宇宙航空研究開発機構、

エバーラスティング・ネイチャー、沖縄県立博物館・美術館、神奈川県立生命の星・地球博物館、神奈川県立動物教養連絡会、瀧野市生命の海科学館、

城西大学大石化石ギャラリー、千葉県立中央博物館分館海の博物館、東京海洋大学、東京大学、東京都立大学、東北大学、豊橋市自然史博物館、

日本テレビ放送網、沼津市教育委員会、八丈町教育委員会、ピリカ、ミュージアムパーク茨城県自然博物館

※開館日・閉館時間等は変更になる場合がございます。※入場方法等の詳細は公式サイトをご確認ください。

海のこと、どれだけ知ってる?

海は、水惑星・地球の象徴であり、地球上のあらゆる生命のみなもとです。特別展「海」では、私たちの身近にある「海」の誕生から現在について、多様な生物や人と海の間わりを紹介するとともに、海と歩む未来についても考えます。

2013年、2017年の「深海」に続く、
国立科学博物館 & 海洋研究開発機構
の特別展第3弾!



第1章

海と生命のはじまり

始原的隕石から太陽系惑星に至る水の起源、地球史における海の誕生と進化、そこで育まれた現在の私たちにつながる初期生命の生態系について最新の研究成果と標本を使って紹介します。



インドネシアシーラカンス (所蔵: アクアマリンふくしま)
古代魚の特徴を引き継ぐ「インドネシアシーラカンス」の液浸標本を展示します。

Topic



小惑星リュウグウの試料を展示

「海の起源は宇宙にあり?」小惑星探査機「はやぶさ2」が採取した小惑星リュウグウの試料(直径2.9mm)を展示。地球における水の起源についての新知見を紹介します。

小惑星リュウグウの試料 (画像: 宇宙航空研究開発機構)

第2章

海と生き物のつながり

日本列島周辺の海底を形作るプレート運動や火山活動などの活動的な地学現象、黒潮を含む海流が生み出す大規模な海洋循環を解説し、それらが生物の分布や多様性にどれほど影響し、大きな広がりが生まれているのかを紹介します。



ケムシカジカ

モノノケトンガリサカタザメ

バラハタ

サザナミフグ

オオカミウオ

サケビクニン

多数の剥製や標本で解説!

イトマキエイ

フエヤッコダイ

第3章

海からのめぐみ

人類史における海とヒトの間わりは食料や貝殻を装飾品などとして利用することから始まりました。現代では、海からのめぐみはさらに大きなものになっています。水産資源の利用にとどまらない様々な「海からのめぐみ」について人類史を通じて紹介します。



丸木舟 (所蔵: 東京都立大学)

人類はどのようにして日本列島へ渡来したのか? 「3万年前の航海徹底再現プロジェクト」で実際に使用された丸木舟を展示します。

ハイパードルフィン (画像: 海洋研究開発機構)

4500m級無人探査機「ハイパードルフィン」の実機を展示。海洋調査の最前線に迫ります。



ウインドチャレンジャー (硬翼帆式風力推進装置) 搭載の貨物船「松風丸」(画像: 商船三井)



2026年度就航予定の北極域研究船 (画像: 海洋研究開発機構)

Topic



超深海! 最も深いところに生きる魚

水深8000mより深い「超深海」で泳ぐ姿が確認されている「スネイルフィッシュ」。その貴重な標本を展示します。

©JAMSTEC/NHK/Marianas Trench Marine National Monument U.S. Fish and Wildlife Service

海との共存、そして未来へ

第4章

人類は、これまで海から様々なめぐみを楽しんできました。一方、近年では、人間活動に伴う環境変化が、海でもあらゆる形で顕在化しています。海で進行するこれらの変化を紹介するとともに、科学技術や我々一人一人の行動変容で、持続可能な形で海を活用していく取り組みについて紹介します。

クジラの胃から発見された海洋プラスチック (画像: 国立科学博物館)



Topic



調査のため船に下ろされたマッコウクジラ

「迷いクジラ」から何がわかる?

2023年1月、大阪湾の淀川河口付近に迷い込んだマッコウクジラ。本展ではこのクジラの胃や腸の内容物を展示します。そこからわかる海の「今」を紹介します。(画像: 国立科学博物館)

イトマキエイ、ケムシカジカ、サケビクニン、サザナミフグ、バラハタ、フエヤッコダイ、モノノケトンガリサカタザメ=画像: 国立科学博物館 オオカミウオ=画像: 神奈川県立生命の星・地球博物館 (撮影: 瀬能宏)
※生体展示はございません。※展示内容は変更になる場合がございます。